

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点

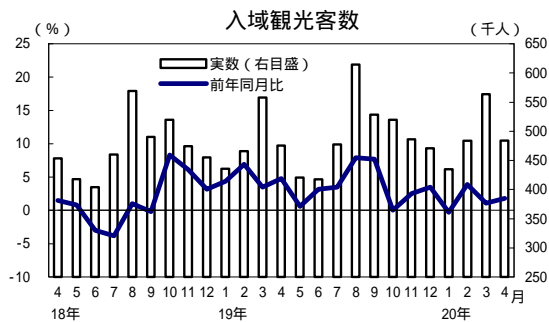
なし。

### 1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、1月は、一部航空便の休止や機材の小型化など、航空会社の提供座席数が減少したため、前年を下回った。2月は、うるう年要因や、春節が重なり、アジア各地の外国客が増加したことから、前年を上回った。3月は、航空会社の増便等による提供座席数の増加や航空運賃の値下げ、香港からのチャーター便やクルーズ船の効果などにより、堅調な伸びとなり前年を上回った。4月はゴールデンウィークの日並びが悪かった影響を受け、国内客は前年を下回ったものの、クルーズ船の寄港回数の増加や、香港との定期直行便の運航開始などにより、外国客が増加したことで前年を上回った。なお、1月は同月としての過去2番目を、2、3、4月も過去最高を記録した。

1～3月期における主要ホテルの客室稼働率は、新規ホテルや旅館等の宿泊施設数の増加に伴い、既存的那覇市内やリゾートホテルは前年を下回った。



### 入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

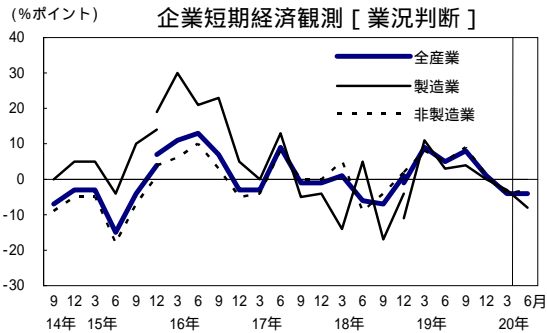
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
入域観光客数	1,313	1,620	1,477	1,482
(前年比)	2.9	6.5	1.9	1.6
ホテル稼働率(前年差)	0.6	0.5	2.4	1.9

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

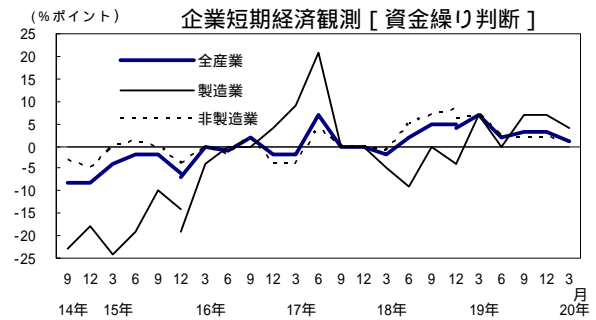
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

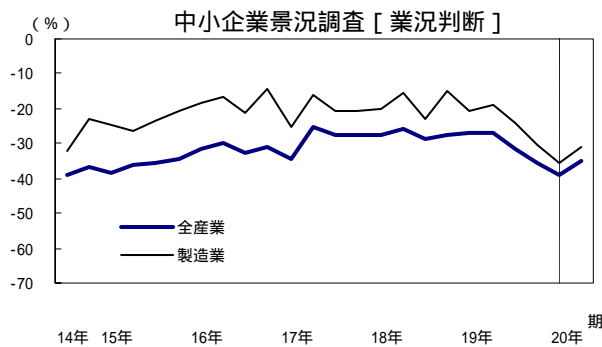
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年6月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。  
九州地区のD I。

### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

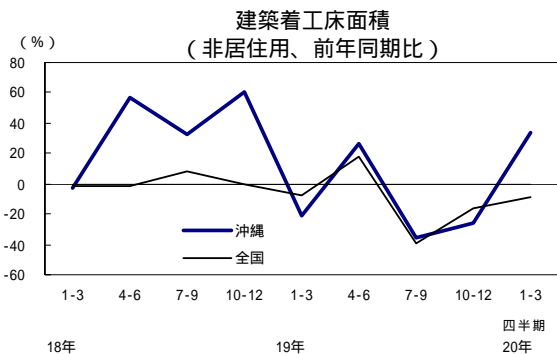
「取引先と契約の話があったり、契約締結にいたった案件もあるが、仕事の着工が先に延びた案件もある(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

### 企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績見込み	20年度見込
全産業	18.9( 1.0)	0.5
製造業	0.7( 13.8)	83.5
非製造業	21.4( 2.9)	9.3

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。石油・電力を除く。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

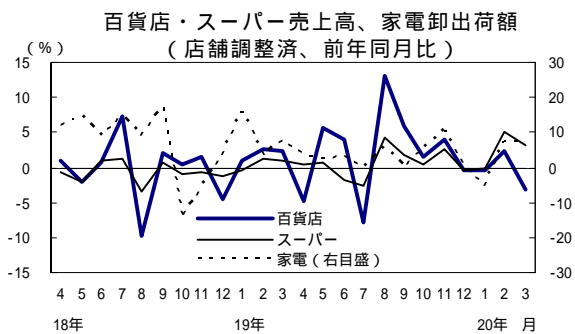
百貨店は、1月は、物産展などの催事効果により来客数は増加したものの、暖冬の影響により、冬物衣料が伸び悩み前年を下回った。2月は、気温が低かったことにより主力の春物衣料の動きが鈍かったものの、催事効果やうるう年要因もあり、前年を上回った。3月は、天候不順などから集客できず、前年を下回った。

スーパーは、食料品が堅調に推移し、前年を上回った。

家電は、洗濯機や冷蔵庫などの高付加価値製品に加えて、引き続き薄型テレビが好調だったことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「書籍も原料の値上げに伴い若干値上げしてきている。文具用品なども値上げしているのので今後衝動買いも減っていく(その他専門店[書籍])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

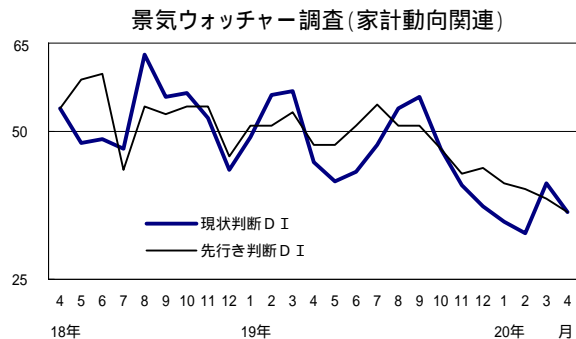
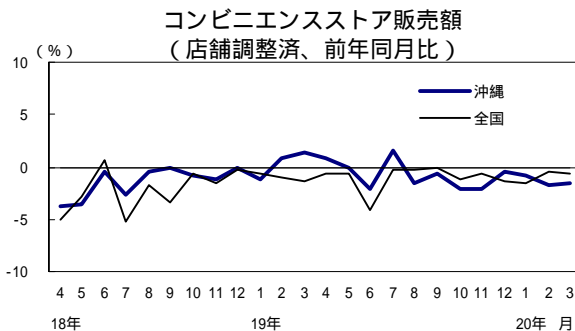


	(前年同期比、%)			
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
百貨店	1.4	2.7	1.5	0.5
スーパー	0.3	1.3	0.8	2.7
家電卸出荷額	3.1	1.8	4.9	3.4
コンビニ	0.5	0.2	1.6	1.4
景気ウォッチャー	43.2	52.4	41.8	36.2

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

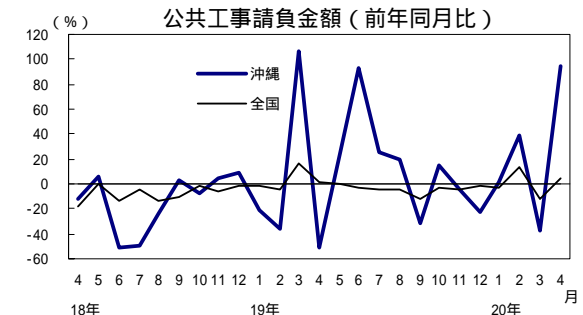
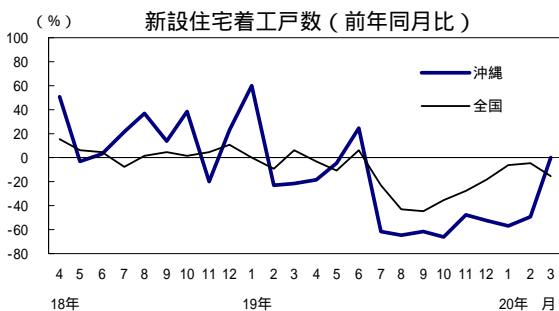
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家、持家、分譲、給与すべてにおいて前年を下回ったことから大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

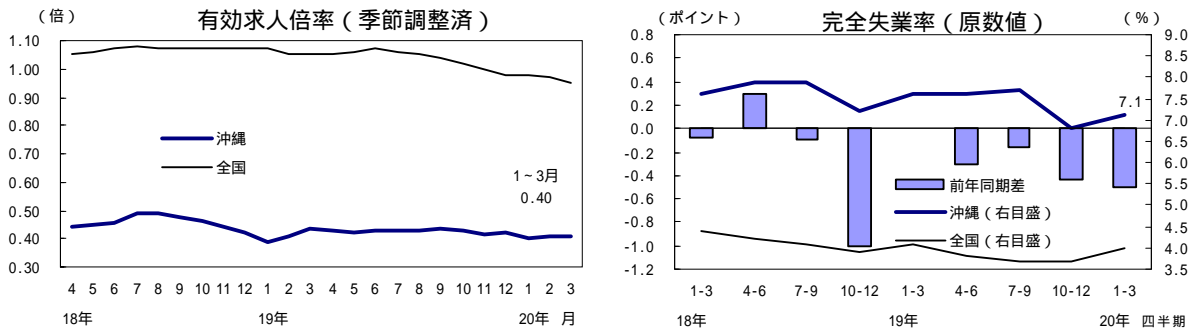


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

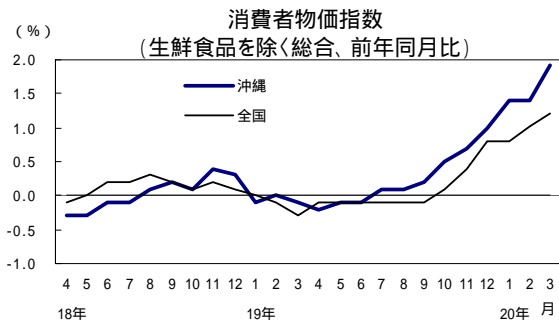
「年明けから求人数が増加傾向にあったが、ここ1か月程度は落ち着いている。求人数も前年同月と余り差異は無いため、求人前倒し傾向の継続と読み取れる (学校 [専門学校])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月	20年4月
倒産件数	23	16	24	26	4
(前年比)	27.8	50.0	26.3	73.3	42.9
負債総額	44	15	33	45	6.4
(前年比)	16.7	83.1	88.4	223.7	59.0



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・入域観光客数も順調に推移し、08年1月と4月24日現在の利用者数は同程度となっている。来園者は一般団体、中学生の修学旅行、家族連れ等が中心である (観光名所)

<先行き>

・航空運賃、諸物価の高騰により沖縄観光は厳しい状況が予想される。しかし沖縄への好感度の持続や、これから夏本番を迎え海に関するイベントが実施されること等から、前年度並みの入域観光客数は維持できる (観光名所)

